



この度の東日本大震災は、ことばでは言い尽くせない、悲しいできごとでした。東京電力福島第一原子力発電所の事故は、更にこれに追い打ちをかけた。原子力発電の導入に向けて舵を取り、またそれを嘸し立ててきた人々、事故の対処に苦勞してきた人々の構造が、頭に浮かびました。

これを、佛の国の曼荼羅ではなく、フクシマまんだらとして、構成したものです。映像は、1ループ6分です。ちょっと長いですが、最後までご覧いただきますと、《まんだら》と共に、ご覧になっている方の姿が映ります。これは、私にとっても、あなたにとっても、《全く関係のない出来事ではない》ということを表現したかったからです。

全体の構造

個別の構造

I	II	III
IV	V	VI
VII	VIII	IX

1	2	3
4	5	6
7	8	9

I 原発導入の舵をとった人達	1	D. Eisenhower	1890-1969	米国第34代大統領。1953.12.8 国連演説"Atom for peace" 全ては、ここから始まった。
	2	柴田 秀利	1917-1986	読売新聞記者。GHQ・CIA・政治家・皇族などの人脈を駆使し、正力の懐刀として暗躍した。
	3	中曾根 康弘	1918-	内閣総理大臣第71〜73代 1954年「原子力予算」を成立させ、原子力委員会設置法等、関連法案を成立させた。
	4	堤 康次郎	1889-1964	実業家西武G創業・政治家衆院議長。塩田として所有していた土地を、福島第一原発用地として高価で売却した。
	5	正力 松太郎	1885-1969	警察官僚・実業家読売社主・政治家。プロ野球の父、テレビ放送の父、原子力発電の父とも呼ばれるも総理への野望は断たれた。CIAの対日秘密工作に協力したことが明るみに。反核の動きを「毒をもって毒を制する」読売の大キャンペーンで原発推進。
	6	木村 守江	1900-1996	参・衆院議員。1964年第4代福島県知事。1966福島第一原発一号機の設置許可を取得。浪江・小高原発を推進(未成)
	7	木川田 一隆	1899-1977	福島県出身。1961年東京電力社長・後会長。福島第一原発の建設を決定。「企業の社会的責任」を唱導し、企業としての政治献金を取り止めるなど、理想派経営者として知られるが、彼の精神は今、どのように受け継がれているのだろうか。
	8	平岩 外四	1914-2007	1976年東電社長・後会長。木川田を師と仰ぐ。経団連会長として活躍するも、《原発トラブル隠し事件》で退任、後復帰。
	9	加納 時男	1935-	東電・副社長原子力担当から、「財界候補」として参院議員に。事故後、東電顧問として復帰。「原子力を選択したことは間違っていなかった。」

II 正しいことを言わない学者達	1	諸葛 宗男	東京大学教授。平成18年6月〜 東芝、東京電力をはじめ15社の寄附による寄附講座「エネルギー・地球環境の持続性確保と公共政策」を持つ。「30マイクロシーベルト毎時の汚染のレベルは、現場に1時間立っていても、レントゲン検査の10分の1」
	2	鈴木 篤之	東京大学教授。先代原子力安全委員会委員長。2011.4.1 日本原子力研究開発機構理事長としての挨拶「原子力は国民の生活に不可欠なエネルギー源です。」
	3	中川 恵一	東京大学医学部准教授。放射線をあびてもDNAの修復能力で大丈夫。「日本は元々がんで死ぬ人の割合が世界一高い。放射性物質を体内に取り込んでも、もともと高い確率がほんの少し高まるだけだ。」
	4	大橋 弘忠	東京大学教授。2005.12.25 佐賀県主催・玄海原子力発電所3号機プルサーマル計画についての公開討論会での発言は有名。「プルニウムは飲んでも安全です」「格納容器が壊れるというようなことは考えられません」「放射性物質が大量に放出されるというようなことはあり得ません。」
	5	班目 春樹	現原子力安全委員会委員長。東京大学教授。「総理、原発は大丈夫なんです。構造上爆発しません。」と述べていたが、一号機建屋で水素爆発が起きたと聞いて「アチャ！」と頭を抱えたとか。
	6	関村 直人	東京大学教授。頻りにマスコミに登場。「炉心熔融はありえない」「冷却水が漏れている可能性は低い」「冷静な対応をお願いしたい」
	7	高田 純	札幌医科大学教授 発言「福島の住民に健康被害は起きない。」「一部メディアによる福島県の人たちを混乱させ、心配させる報道には腹が立つ。」
	8	石川 迪夫	日本原子力技術協会最高顧問。頻りにマスコミに登場する、原子力擁護派。「プルニウムは重いので原発敷地内にしか落ちていない」
	9	山下 俊一	長崎大学教授。福島県から放射能汚染の相談役として招かれて講演。講演の度に発言を巧みに変更してきた。「内部被爆で傷ついた細胞は新陳代謝で直る、放射性物質はマスクをすればすぐ消えるから花粉より良い。」

III CMで嘸し立ててきた人達	1	星野 仙一	プロ野球	関西電力CM	IV 被害を被った県の知事達	2	佐藤 雄平	福島県知事
	2	草野 仁	アナウンサー	東京電力CM		4	村井 嘉浩	宮城県知事
	3	高橋 英樹	俳優	関西電力CM		6	達増 拓也	岩手県知事
	4	薬丸 裕英	俳優・司会	中部電力CM		8	三村 申吾	青森県知事
	5	吉村 作治	考古学者	東京電力CM				
	6	岡江 久美子	女優・司会	原子力発電環境整備機構CM				
	7	北村 晴男	弁護士	中部電力CM				
	8	玉木 宏	俳優・歌手	四国電力CM				
	9	勝間 和代	経済評論家	中部電力CM				

V 政府	1 枝野 幸男	内閣官房長官	震災・福島第一原発事故時のスポークスマン。現在、野田内閣の経済産業大臣・特命担当大臣原子力損害賠償支援機構担当。2011.11.8 国会答弁「直に人体、あるいは健康に影響がない」という事を申し上げたのは全部で7回でございます。そのうちの…」
	2 北澤 俊美	防衛大臣	東電清水正孝社長が、自衛隊輸送機での東京への帰着を要請したが、これを拒否、既に飛び立った自衛隊機を名古屋へ引返させた。
	3 細野 豪志	内閣総理大臣補佐官	「原子力発電所事故全般についての対応及び広報」を担当。現在、野田内閣の特命担当大臣原子力行政担当。
	4 海江田 万里	経済産業大臣	2011.7.21参院予算委員会に左の手のひらに「忍」の字を書いて出席。2011.7.29衆議院経済産業委員会の答弁中に号泣。
	5 菅 直人	内閣総理大臣	3月12日の原発視察によってベントが遅れ、炉心熔融を招いたとする意見も多いが、正確な情報を得られなかったことが、この人の不幸。
	6 平野 達男	特命担当大臣防災担当	松本龍防災担当大臣の後任。野田内閣にて初代復興大臣。
	7 鉢呂 吉雄	(野田内閣)経済産業大臣	「放射能つけちゃうぞ」発言で辞任。しかし、これは「マスコミによる捏造」とする意見が多い。
	8 松本 龍	特命担当大臣防災担当	宮城県知事に対する発言「お客さんが来る時は、自分が入ってから呼べ」発言により、就任9日目で辞任。
	9 園田 康弘	内閣府政務官	2011.10.31 政府・東電合同記者会見で、処理済み汚染水を飲んで見せた。

VI 福島第一 原発と その 周辺	1 福島第一原発 一号機	3.12 水素爆発し建屋が吹き飛ぶ、4名負傷。
	2 放射線量測定を受ける子供	将来、この子のところに傷が残らないことを祈る。
	3 福島第一原発 二号機	3.14 炉心内の核燃料棒が完全露出。
	4 除染作業	除染といっても、放射性物質の場所を移動しているに過ぎないのだが。
	5 福島第一原発 高濃度汚染水タンク	これらの高濃度汚染水はどうなったのだろうか。
	6 立入規制	避難を余儀なくされた人たちが戻れる日は、果して来るのだろうか。
	7 福島第一原発 三号機	3.14 水素爆発。
	8 飼主が避難し、路頭に迷う牛達	現実には、表示できない悲惨な光景が多数。
	9 福島第一原発 四号機	3.15 原子炉建屋の5階付近で水素爆発。

VII 原子力 安全・ 保安院	1 西山 英彦	審議官	スポークスマンとして三番目に登場も、女性スキャンダルで退場。
	2 根井 寿規	審議官	スポークスマンとして二番目に登場も、「(会見は)やりたかないんですけども…」発言で退場。
	3 中村 幸一郎	審議官	スポークスマンとして最初に登場、「1号機炉心の燃料は、溶けているとみてよい」発言が官邸から嫌気され退場。
	4 広瀬 研吉	内閣府参与	原子力安全・保安院の3代目院長。レベル7宣言をしたが、「直ちに影響はありません」
	5 寺坂 信昭	第5代原子力安全・保安院長	国会事故調での発言「私は文系なので、官邸内の対応は理系の次長に任せました」
	6 深野 弘行	第6代原子力安全・保安院長	国会事故調での発言「全て世界の基準を完全に見尽したわけではございませんが…」
	7 不詳	広報担当	記者会見で「ダウンスケール」という言葉を使うも、意味がよくわかっていなかった模様。
	8 青木 一哉	統括安全審査官	記者会見で「燃料は損傷してと思われるので、かなり危険な核種が外部に放出される可能性がある。」
	9 森山 善範	原子力災害対策監	西山に代わって登場。「原子爆弾は一瞬に爆風や熱線、中性子線を放出し、破壊するもので、単純に放出量で比較するのは合理的ではない」

VIII 東京電力	1 勝俣 恒久	会長(第10代社長)	大震災当日、日中の経済交流を進める「愛華訪中団」の一員として中国にいた。02年トラブル隠して社長に就任も、06年のトラブル隠して会長に退く。
	2 藤本 孝	副社長	電力流通本部長として計画停電を指揮。
	3 松本 純一	原子力・立地本部長代理	記者会見担当を務める。「メルトダウン」の表現を避け、「大部分の燃料が炉心支持板より下に行った…」と表現するなど、巧妙な言いまわしが際立つ。
	4 清水 正孝	社長	大震災当日、関西に出張中(実際は、妻と秘書と共に奈良観光。関西財界人との面談はなかった…)であった。
	5 吉田 昌郎	第1原発所長	本社からの海水注入の中止命令に反して、独断で続行したということになっているが、明確なデータは出ていない。
	6 武黒 一郎	フェロー(国際原子力開発株式会社社長)	事故直後、官邸に詰め、官邸との中継役を務める。吉田所長に対し、電話で海水注入の中止を指示。官邸に対する暴言がテレビ会議ビデオで明らかに
	7 廣瀬 直己	福島原子力被災者支援対策本部の副本部長	「被害者目線に立ち真摯に対応した」と評価された。現社長。
	8 武藤 栄	副社長	記者会見「英語では必ずしもニュアンスが正確に伝わらないと思って「燃料ペレットの溶融」と申し上げた。」と、「メルトダウン」の表現を避けのりらり。(現)顧問。国際原子力開発株式会社の役員に就任。
	9 岸野 真之	広報部課長	3.14記者会見で「計画停電」の開始を発表。

IX 国会 事故 調査 委員会	1 田中 三彦	科学ジャーナリスト、元日立・福島原発压力容器設計エンジニア	<p>徹底的な調査をしてもらいたいが、官総理の原発視察が更に混乱を招いたとする等、受け狙いの部分も見え隠れする。</p> <p>委員会には、もう一人のメンバー 櫻井正史氏(弁護士、元名古屋高等検察庁検事長、元防衛省防衛監察監) がいる。</p>
	2 野村 修也	中央大学大学院法務研究科教授、弁護士	
	3 崎山 比早子	医学博士、元放射線医学総合研究所主任研究官	
	4 田中 耕一	化学者、株式会社島津製作所フェロー	
	5 黒川 清	医学博士、東京大学名誉教授、元日本学会議会長	
	6 石橋 克彦	地震学者、神戸大学名誉教授	
	7 大島 賢三	独立行政法人国際協力機構顧問、元国際連合大使	
	8 蜂須賀 禮子	福島県大熊町商工会会長	
	9 横山 禎徳	社会システム・デザイナー、東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラム企画・推進責任者	